

倶多楽

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2007年5月2日夕刻～3日早朝の間に始まった熱泥水噴騰活動は、1年余りが経過した現在も継続している(図1)。

4月15日から取得できるようになった毎分ビデオ映像や5月26日に遭遇した噴騰活動の目視観察によると、熱水噴騰は湯溜まり内の数カ所に認められた。噴騰は多数の小気泡を含むウォータードームタイプ(写真1)と水柱タイプがある。4月15日以降の活動では前者が卓越し、主に水柱タイプが認められた噴騰活動開始時に較べて、穏やかな噴騰が続いている。

熱水噴騰に伴う地動振幅も小さく、穏やかな噴騰と調和する。

全体として噴騰活動は終息する傾向にあるが、地獄谷で知られている異常地熱活動は1～2年間つづいたことから今後も噴騰活動は継続すると考えられる。



写真1. 2008年6月7日13時52分頃の熱水噴騰活動時の表面の状況. 多数の小気泡を含むウォータードームタイプの熱水噴騰

青森県東方沖地震(4月29日14時26分, Mjma=5.5)

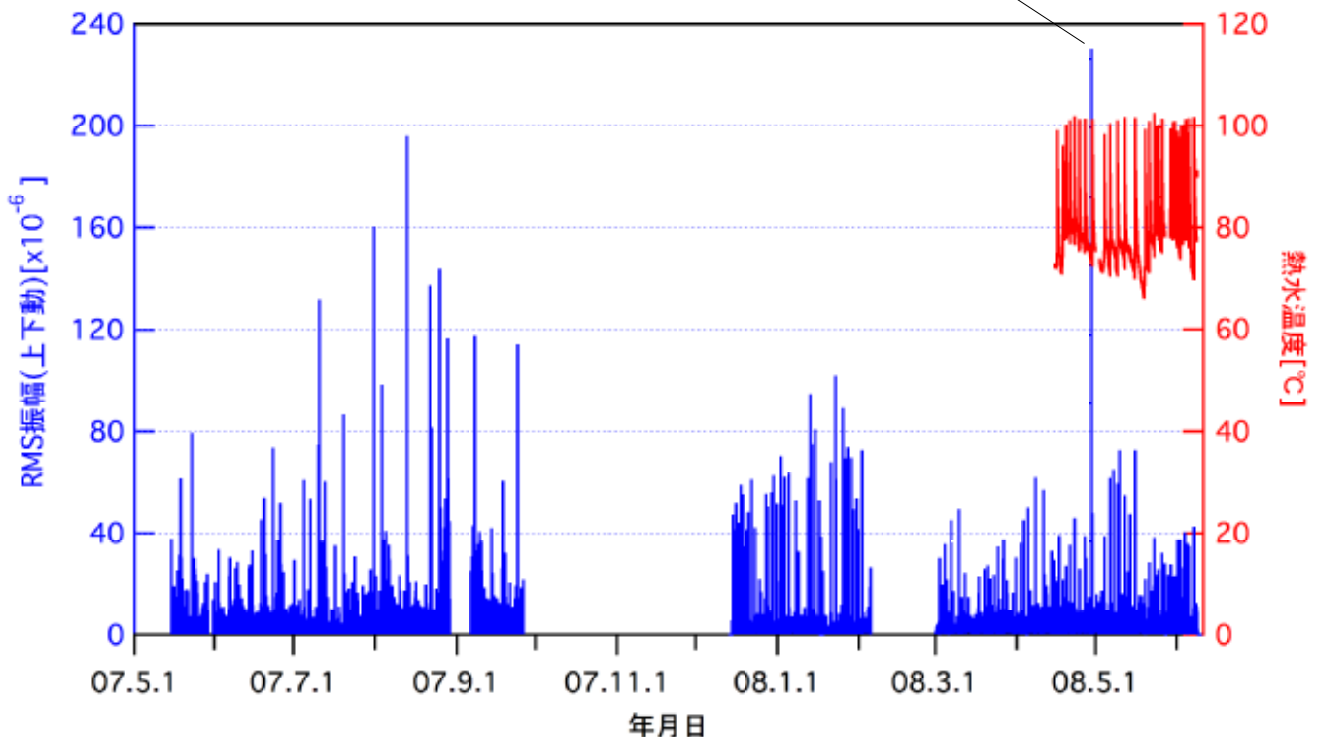


図1. 大正地獄内の熱水温度(赤)と1分ごとのRMS地動振幅(青)の時間変化. 熱水温度はテレメーター観測結果による. 温度センサー設置深度は満水面下約5mである.

(大島・我孫子・前川)